公納かくことなきを第一とすべし。其他作事の夫役など、時におくるべからずと戒めけり。されば自他共に感賞して其風に化しければ、安永元年（一七七二）褒賞して米を与えり。忠義者伊兵ヱ、享和元年（一八〇一）同上。

三二、小松村および四つ壇・松野・三本松

1、村の起りと館の由来　明治十六年の記録までは下小松とあり、同二十二年の町村制施行には古舘村小松とあるから、その間の同十九年頃、下がとれたかと思うが、慣用としてはその前後が明確でない。南の本郷町関山奥に上小松という数軒の古い村があり、それに対して下小松といったとも伝えるが、これも明らかでない。

新編会津風土記に下小松に館跡が三つあったとして、伝承を概説している。復元してみると、本丸が現在の小学校の校舎と校庭を含めて三〇間四方、その西、道路を隔てて常徳寺があるが、寺院境内と墓地の一部を含めて二八間四方、北には現在の多賀神社境内で東西二六間、南北一六間である。常徳寺墓地南縁の土堤跡、多賀神社の西より北にかけての土堤がその名残りかと思われる。

つぎの一つの館は、もう構造改善で崩されてしまうであろうが、村北に一〇〇メートルほど離れて土堤跡をたどって、ほぼ方形にみえるもの、東西三〇間、南北四六間とみえる。もう一つ村西に六〇間四方の館があったと伝えている。

この館の築造が村の発達と密接な関係があろうと思われるが、館主及び築造年代は多分に伝承的なもので、新編風土記もまたその伝承によるので、これを明確にすることは容易でないが、いくらかその伝承に筋道をたてて解説してみようと思う。

風土記には延文の頃（一三五六～一三六〇）小松弾正包家が築いたとある。室町の中頃で、下荒井の築城が元